22日　金曜

Ⅱコリント

8:16 私があなたがたのことを思うのと同じ熱心を、テトスの心にも与えてくださった神に感謝します。
8:17 彼は私の勧めを受け入れ、非常な熱意をもって、自分から進んであなたがたのところに行こうとしています。
8:18 また私たちは、テトスといっしょに、ひとりの兄弟を送ります。この人は、福音の働きによって、すべての教会で称賛されていますが、
8:19 そればかりでなく、彼は、この恵みのわざに携わっている私たちに同伴するよう諸教会の任命を受けたのです。私たちがこの働きをしているのは、主ご自身の栄光のため、また、私たちの誠意を示すためにほかなりません。
8:20 私たちは、この献金の取り扱いについて、だれからも非難されることがないように心がけています。
8:21 それは、主の御前ばかりでなく、人の前でも公明正大なことを示そうと考えているからです。
8:22 また、彼らといっしょに、もうひとりの兄弟を送ります。私たちはこの兄弟が多くのことについて熱心であることを、しばしば認めることができました。彼は今、あなたがたに深い信頼を寄せ、ますます熱心になっています。
8:23 テトスについて言えば、彼は私の仲間で、あなたがたの間での私の同労者です。兄弟たちについて言えば、彼らは諸教会の使者、キリストの栄光です。
8:24 ですから、あなたがたの愛と、私たちがあなたがたを誇りとしている証拠とを、諸教会の前で、彼らに示してほしいのです。

Bible Reference 聖書の記述

テトスは献金を携えてコリントに向かいました。それは当時のように盗賊や海賊が横行する時代においては、非常な危険を伴う役割でした。そればかりではなく、長い旅はそれ自体大変な犠牲を伴うものです。テトスはそれを「自分から進んで」したのです。主のため、教会のため、兄弟姉妹のために奉仕するに当たって、ある人々は「忙しい」「自分にはできない」「その余裕がない」などと言うこともありますが、問題は気持ちがあるかないかです。愛のある人は、出来る範囲であっても最善をつくそうとします。

パウロもまた自分の役割、特にコリント教会の人々を導くということに最善をつくそうとしています。同行する者が教会に受け入れられやすいように、それで彼の存在が教会の恵になるように。また献金に関しても、その扱い方が問題にならないようにして、教会に要らぬ混乱がないようにと配慮しています。

特に兄弟姉妹の新しい人間関係が始まるにあたって、「彼は今、あなたがたに深い信頼を寄せ、ますます熱心に」「私たちがあなたがたを誇りとしている」と証して、互いの存在が初めから信頼関係で結ばれるように導いています。

人の良いところを見て、互いが結ばれて教会が建て上げられる方向に向けてゆく…。それがクリスチャンの人間関係です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？